

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和4年7月1日（金）10時30分～11時55分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、大辻室長補佐、松田室長補佐、新井安全審査官、高木係長、  
横山係長

福島第一原子力規制事務所

黒川原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当6名（テレビ会議システムによる出席）

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
  - 測定・確認用タンク（K4タンク群）循環攪拌実証試験結果について
    - ✓ 循環攪拌実証試験後のタンク上層及び低層、循環ラインサンプリングポイントで採取した水について、主要7核種の分析を実施した。
    - ✓ Cs-137、Co-60及びI-129は、検出濃度が低く分析の不確かさによるばらつきが主であると考えている。なお、Cs-134、Ru-106、Sb-125、Sr-90の濃度は検出限界値未満であった。
  - 陸側遮水壁設備におけるブライン供給配管からの冷媒（ブライン）漏えいについて
    - ✓ 本年2月15日に発生したカップリングジョイント部からの漏えい事象を受けて、全てのカップリングジョイント部の遊間計測を実施し、計測データを集積する。また、漏えいしたカップリングジョイント部については、定期的な計測にて重点的に遊間の監視を行う。
    - ✓ 今後、上記の対応を踏まえ、さらなる予防保全の確立を検討する。
  - D2タンク内残水移送完了およびD1タンクスラッジ回収作業について
    - ✓ EエリアフランジタンクのD1タンクについて、スラッジ回収に必要な設備を設置し、本年6月23日からスラッジ回収作業を実施している。
    - ✓ 今後については、本年8月までの回収作業におけるスラッジ回収量や内部線量測定の結果を踏まえ、完了時期の見通し等あらためて報告する。
  - 再利用タンクの汚染低減対策について
    - ✓ ALPS処理水を受け入れるタンクを増やすため、処理途上水を貯留しているタンクを集約することで、一部タンク群を空にし、汚染低減対策を講じた上で、ALPS処理水を受け入れる計画である。
    - ✓ 今後、集約した処理途上水については、告示濃度比総和（62核種+C-14）が1未満となるまで浄化処理を行う予定である。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、主に以下の内容を求めた。
  - ✓ 測定・確認用タンク（K4タンク群）の循環攪拌実証試験により得られ

た今回の分析結果を踏まえ、測定・評価における検出下限値の考え方や告示濃度比総和が 1 未満を超えないことを判断するための根拠等について今後説明すること。

- ✓ D1 タンクスラッジ回収作業について、回収したスラッジの管理方法や回収作業にて想定される被ばく線量を説明すること。
- ✓ 回収作業に際して、外部へのダスト飛散防止のために、R- $\alpha$ ハウスを設置し、HEPA フィルタ付きの局所排風機で負圧管理を行うとしているが、それらの機器や資機材が台風等の自然現象で損傷しないような対策を講じること。

## 6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール（2022年6月30日現在）
- 水処理設備運転状況、運転計画（2022年6月17日～2022年7月14日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2022年6月17日～2022年7月1日）
- 各エリア別タンク一覧
- 汚染水等構内溜まり水の状況（2022.6.23時点）
- 建屋内における残水等の状況について
- 福島第一原子力発電所における固体廃棄物について
- 福島第一原子力発電所 測定・確認用タンク（K4タンク群）循環攪拌実証試験結果について
- 陸側遮水壁設備におけるブライン供給配管からの冷媒（ブライン）漏えいについての状況報告
- Eエリアフランジタンク D2タンク内残水移送完了およびD1タンクスラッジ回収作業開始予定
- 再利用タンクの汚染低減対策について

以上